

一貫教育校の広場

ニューヨーク学院
(高等部)

女子高等学校

志木高等学校

高等学校

湘南藤沢
中等部・高等部

中等部

普通部

横浜初等部

幼稚園

普通部125年に向けて

●普通部 教諭 藤尾 高太かおたかひろ

普通部は来年、中学校の課程となって125年を迎えます。普通部100年から25年の間に、校舎の建て替え、目路はるか教室の開講、国際交流の始動など、普通部の教育改革は飽くことなく進んでいます。また、この数年は教育のICT活用の推進、コロナ禍における教育環境の変化にも対応してきました。

えます。価値があるものを正しく評価することは、物や情報があふれ、価値観にも多様性が認められる現代において難題ですが、現地を訪れることで福澤先生が守りたかった思いをリアルに感じることができました。このことは普通部の教育観にもつながります。自然学校、林間学校は旅行代理店任せを好みません。教員が直接現地を訪れ、普通部生に価値のあるものを提供したいと考えるからです。普通部の行事を代表する労作展では自らテーマを決めるところから作品を制作し、目路はるか教室では各方面で活躍される先輩方と直接話をし、職場などを訪ねます。目路はるか教室の講師の方々は半年前から準備を始め、普通部生のための講義を準備してくださります。日常の授業に目を向けても、普通部は生徒に対して対面で授業し、やりとりすることを何より重んじます。多感な時期にある男子生徒が同じ空間で学校生活を送り、実際に

現在、できることを模索しながら125年に向けて準備が進んでいます。その一環として、私も含めて本校の十数名の教員が福澤先生ゆかりの地である中津、長崎、大阪を訪れました。前部長である社会科学の山崎一郎先生、福澤研究センターの所員でもある大久保忠宗先生の案内の下、ゆかりの地を歩き、関連のある史跡、資料館などを見学しました。先生方に『福翁自伝』に記されていることや時代背景を現地で解説していただきました。百聞は一見に如かずとよく言いますが、真にこのことだと感じました。特に、福澤先生が1894（明治27）年に中津を訪れた際、耶馬溪やまがきが土地開発のために売り出されたことを知り、それに対して私財を払い、その景観を守ったという逸話に触れたので、実際に足を運んでみました。のちに耶馬溪は日本三大奇勝といわれるようになり、福澤先生はナショナルトラスト運動の先駆者であったと言



のちに触れ、学び取ったことに関して忌憚なく意見を交換する経験が何よりも生徒諸君にとって貴重な経験になるからです。

125年を迎えてもなお普通部は福澤先生の建学の精神の先導者を育んでいきます。

125年を迎えてもなお普通部は福澤先生の建学の精神の先導者を育んでいきます。